南北海道外洋帆走協会　会報１３７号

総務委員会
2003. 8. 7

▼ 初めての青函カップ優勝

速鳥　荒山雅仁

7月18日（金）19:30にポンツーンを離れ一路青森へ、ビールもたくさんつんであるし、つまみもあるし大宴会だ。潮きりを出たら波、風が強い、大鼻を抜けたら大波、風、うねり、しぶきで宴会どころじゃない。7月19日（土）5:30青森アスパム横の岸壁に着いた、全員船酔いで大変だった。と回航した6人が言ってました。8:10出航、寝不足と船酔いのクルーと、昨日ホテルで休養充分の艇長のコンビで青森港を出てスタートラインへ向かう。フルメインとNO3ジブをセット。「また酔いそうだ」の声、「酔い止めを飲んだから大丈夫」の声、風が強い、7月なのに2日間ずっと吹くなんてないよなと思いながら本部船のまわりをひと回り、5分前、大会旗があがった、4分前P旗、2分前、船をスタートラインに向けた、1分前、ギャロッパーがスタートラインになぞって風下に流していった、うちの船もまだ早い、ガリクロで上る、10秒前ベアしてラインへ向かう、スタートホーンが聞こえた、3秒ほど遅れたが今年初めてのレースとしては上々。

前を見ながら「リコール旗揚がってる？」と聞くと「揚がってるけどうちじゃない」と返事、「ギャロッパーが回りなおしてる」との報告、針路は0度、風にセールを合わせる、全員舷側に並ぶ、東北東の風、艇速6.5ノット、「順調だな」と思って後ろを見ると全艇すぐそば、みんなスタートがうまい、とても今年初めてのレースと思えない。スタートから30分、レーティングってよくできてるなあと感心、後ろには3艇だけ、先行艇は西のほうにメリディアン、東のほうはもう船名の判断が出来ないほど離れてしまった。11:00変わらずいい風、30分前から艇速は7ノットにあがってる、もう目の前に平舘、少しむこうに明神崎の白い灯台、西寄りに帆走っていたら平舘沖のブイの横を通過した。11:30明神崎沖を通過、2時間半で平舘海峡を抜けるなんて初めてだ、エンジンかけてる時より速いぞ。12:30針路はいまだ0度、東よりの艇は待ってくれている、ここは東北東の風が強い、うまくゆくと前に出れるぞと気合を入れて西を見た、あれぇ先行艇が緑色のスピンを揚げている、なんで～。30分帆走したら理由がわかった、風が東から南東へと回り弱くなってきた、「しゃあないなあ、スピン揚げるか」と皆を見渡すと、誰も「オレが！」と見返さないので言いだしっぺがバウデッキへ。東の艇はまだ苦労しているようだ、今のうちだ頑張ろう、「あれ！風が前に回ったぞ」の声とともに風がなくなった、もう海峡の入り口だ、流されたら大変だ、後ろから同型艇のメロディが迫ってきて左舷横を西へ帆走って行く。「この次はファーラーだね」と云いながらNO1ジブを揚げるが走らない、メロディは西の方へ離れて行く。「風が来たぞ」の声、本当だ、前と同じ東北東の風だ、無風は15分ですんだ。

14:30海峡の真ん中、NO1、フルメイン、艇速7.5ノット、ヒール20度、ティラーが重い、風に合わせて出し気味のNO1ジブが波をすくう、ザッパン、ザッパンて具合、NO1からNO3に交換、強風の中の作業でうまくゆかず大変。16:00フィニッシュ迄あと7マイル、無線から1時間前コールが、前を見ると穴間沖に6艇ほど見える、函館山のブランケットを避け西よりにコースをとる。16:30大鼻沖、これだけ吹いてれば風は大丈夫、まっすぐフィニッシュラインに向けろ、あれ、風が回る、やっぱり東風のときの穴間沖は難しい。もうすぐフィニッシュだ、このまま一本で入れるぞ、また風が！、まあいいやワンタック入れりゃあいいんだから、タックしてと、もうすぐだ、はいったあー、はあ～疲れた。

17時7分か、速かった、こんなに早く帰ってこれるとは思わなかった、「何位くらいかな」の声、「わかんないけど6位前後かな」。7月20日（日）昨日夕方に帰ってきて風呂に入って、ビールを飲んで、ゆっくり寝たのに体中が痛い、腕、背中、尻、腿、ふくらはぎ、全部だ。次の日に痛むんだから俺も若いなと思いながらはなびしホテルへ、温泉に入って缶ビールを一缶、うまい。

ファーストホームがサムライ、6位ポーラースター、あれ？ポーラースターはうちの後だったよな、え～！、ほんと？、5位ギャロッパー、4位リトルジョン、3位マリオネット、も、もしかすると！、2位マリオネット、ワ～オ！うちの船なの？、総合優勝速鳥、バンザーイ！、初めての青函カップ優勝、本当にうれしい。

スピンは失敗するし、ジブセール交換には手間取るし、先頭から一時間も離されるし、それなのにこの結果、今回は運が良かったと素直に思いました。

▼ 第１６回青函カップヨットレース開催される

2003年7月19日09：00青森港沖をスタート。風は北東よりの風18m/ｓ、終始東よりの風でコースレコードが出た.

今年はエントリー27艇、函館からｷﾞｬﾛｯﾊﾟｰ･速鳥・JAZZ・ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝ・ｸﾛｺﾀﾞｲﾙ・ｻﾑﾗｲ･ﾒﾘﾃﾞｨｱﾝの7艇、青森から5艇がORCクラスにエントリー, 八戸から2艇、むつ・小樽から各1艇の参加。宮古の姫神はＤＮＳ。オープングループでロシアから7艇がエントリーしたが、ｱﾔｯｸｽがＤＮＳ。益々国際レース化してきた。秋田からもオープンクラスにエントリーがあった。北日本最大のクルーザーレースというのが益々確固となってきた。

最初にゴールを切ったのはロシアのカレラで所要時間6ｈ50ｍ07ｓ。午後3時50分にゴールしてしまった。編集子は仕事の都合上、夕方に函館漁港に行ったらあと2艇しか残っていなかった。記憶にないくらい速いレースだった。カレラはオープン参加のため、公式なファーストホームはｻﾑﾗｲの7ｈ15ｍ00ｓが勝ち得た。この記録が公式のレコードﾀｲﾑとなると思われる。ロシア艇・けんよしなどはＯＲＣクラブレーティングを持っていないので、規定どおりオープン参加となった。速鳥の荒山艇長に優勝の記を書いていただいたのでご覧ください。また、レースの様子を写した写真は勧進丸のＨＰに掲載されています。裏面に成績表を載せました。

▼ ヤムの佐藤先生の散骨

「散骨して手を合わせて、花をたむけてその後3回廻るらしいんだけど、どっち廻りにまわるんだ」とフィッシャーの金丸先生に聞かれた。さすがに判らなかった。みんな初めてなんだからしょうがないよね。

8月3日（日）朝からあいにくの雨。09：00ヤムの船上には10人ほどが札幌や各地から、山の仲間・海の仲間が集まっている。外帆からはペガサス・ベルファム・勧進丸・リーワードが参加。9:50ポンツーンを離れ、大鼻沖に向かう。雨はやむことはなかったが風は穏やかであった。寒川沖あたりで合掌、散骨を行い花束、各自１本づつの花を海中に投下。アンクロックで3回廻る。

佐藤先生の奥さんは随分一時やせていたが、だいぶ体力がついたようで一安心だ。各艇思い思いに帰路に着きポンツーンで故人をしのんだ。参加いただいた皆様ご苦労様でした。

同日同時刻に予定されていたボート天国の体験試乗会は雨天のため中止となりました.

▼ ＪＳＡＦへの登録完了

かねてより申請していたＪＳＡＦ（日本セーリング連盟）への登録手続きが完了しました。７月１２日のＪＳＡＦ理事会で認められた模様です。ＪＳＡＦのホームページには７月２２日から特別加盟団体として載っています。これで、色々有りましたが, 晴れてＩＳＡＦのルールを堂々と使用することが出来ます。２０名のＪＳＡＦ登録メンバーが必要とのことで急遽入会手続きにご協力いただいた会員の皆様、また他の団体を経由してすでに会員となっていた方の名前も登録の際に使わせていただきました。厚くお礼を申し上げます。外帆だけの会員で登録できたことはすばらしいことだし、これからも函ヨ・ジュニアとも力をあわせて函館のヨット界に貢献できればと思います。ＪＳＡＦ会員には自動的に傷害保険が付与されるということです。新規でＪＳＡＦに加入したいという方は亀谷会員まで。

▼ライブカメラ

ひょんなことから函館湾のライブカメラを発見しました。函館海上保安部のホームページで、江差のかもめ島と「葛登支灯台」です。灯台から函館山方面に向いていて自分でカメラを動かすことが出来るしズームもあります。穴間から大鼻あたりの舟ならライブで観察できます。是非ご覧ください。それと、ラジオで流している灯台の気象通報も画面で津軽海峡一円が手にとるようにわかります。その他色んな情報が満載されていそうですが, 深くまで見ていません。海保のサービスもあなどれません。

▼　会員短信；

旭光の佐藤会員は二月ほど前に本州一周の旅に出ていまだ旅の途中です。錦田会員も太平洋一周の旅に出てニュージーランドから北上していると思うのですがまだトロピカルを満喫しているようです。マイウエイの小松御夫妻は１週間ほど前に旅に出ました。奥尻から松前を経由して秋田・佐渡までいけるところまで行くようです。マサシの金沢さんは２週間ほどかけてシングルで佐渡まで行ってきました。金丸先生のフィッシャーも２年ぶりに元気にデイセーリングに出ています。山本さんの武蔵も江差から回航しお仲間入り。一時フィッシャーの所に止めていたクリオネも函ヨの徳永さんが新しいオーナーとなってチャンピオンの隣に舫われています。「徳丸」で良いんじゃないのといったら、別な名前にするといってました。新しい名前は忘れてしまいました。ごめんなさい。